

# 生徒数の推移予測

H22.4.1現在 (人)

中学校名	H20入学 H7生	H21入学 H8生	H22入学 H9生	H23入学 H10生	H24入学 H11生	H25入学 H12生	H26入学 H13生	H27入学 H14生	H28入学 H15生
伊奈中学校	88	134	116	119	122	153	120	142	159
伊奈東中学校	91	99	93	102	87	98	96	78	83
谷和原中学校	66	62	58	66	60	51	53	54	48
小絹中学校	114	106	108	129	123	103	103	99	90
計	359	401	375	416	392	405	372	373	380

※東小学校では、担任の配置不足を市費により臨時雇用して各学年1人の担任が配置されています。

## ◆「適正配置」について

- (1) 将来の児童生徒数の推計
- (2) 適正規模校化を図るため、小規模校の学区調整や統合の検討

討

- (3) 大規模校にあつては、教室増設や学区調整、移転、新設などの検討を行います。

適性配置を進めていくにあつては、それぞれの歴史や地域との関わりを考慮しながら進めなければなりません。また、通学距離や通学時間の増大に伴う、児童生徒の負担軽減や安全確保に留意して進めなければなりません。

このようなことが最も大切であることから、市民との協議を十分に行い、合意形成を行ったうえで実施していくことを基本としています。

## ◆茨城県の小中学校の児童生徒数の状況

近年のピーク時と比較して約40%減少しています。しかし、学校数はあまり変わっていません。

## ◆市の小中学校の児童生徒数の状況

市でも茨城県同様に減少していますが、みらい平地区においては、増加している状況です。地区によって「小規模校化」と「大規模校化」の二極化が進んでいます。

## 小規模校のメリット・デメリット

### 【児童生徒における教育効果や学習環境】

Q 学習面における問題点はどのようなものですか。

A 個別指導や補習指導が実施しやすい反面、いろいろな友達の考え方にふれたり、話し合いの中で考えを深める機会が少なくなることで、児童生徒同士による切磋琢磨や競い合いが少なくなります。

また、体育授業でのゲームや、音楽授業での合奏などが成立しない場合があります。

Q 学校行事における問題点はどこ

のようなものですか。

A 全校で行う行事が柔軟に機動的に実施できる反面、宿泊学習や修学旅行では、2つの学年を同時に開催するなど工夫しなければなりません。さらに、団体割引などの特典を利用できないなど活動経費が割高となります。

また、運動会などの行事において、児童生徒の役割分担が多くなります。

Q 部活動や生徒会活動における問題点はどのようなものですか。

A 部活動における部員の確保が困難であると、部活が存続できないことから部活数が減ることにつながり、結果としてやりたい部活の選択が制限され、一人ひとりの個性を伸ばす教育活動の機会が無くなってしまう。

生徒会の各種委員会（給食委員や図書委員など）活動や、係活動で一人ひとりの役割が多くなります。

### 【教員における教育効果や学習環境】

Q 生徒指導における問題点はどのようなものですか。

A 先生が児童生徒一人ひとりの個性を把握することで、きめ細やかな学習指導・生活指導・生徒指導ができる反面、中学校においては教員の定数が少ないことによる専門教科（美術・音楽など）を指導する先生の確保が困難となるものが想定され、従って生徒個々を伸ばす個性化対応の教育ができなくなります。

### 【児童生徒における人間環境や生活環境】

Q 人間関係における問題点はどのようなものですか。

A 児童生徒が互によく知り合えて、教員との一体感が深まるという利点がある反面、交友関係が固定化しやすく、対人関係で問題が生じた場合はクラス替えも出来ないことから、修復や解消が困難となり、結果として不登校や転校といった重大な問題にも発展しかねません。

### 【保護者における学校との関連】

Q 保護者における負担などの問題点はどのようなものですか。

A 校外学習や宿泊学習などを実施するときのバス代や、卒業アルバムを作成するといった場合に保護者負担が大きくなります。

